



今月の主な目次

- 自給飼料の増産を考える
- 乳牛飼養管理のポイント

- 営業所だより シリーズ ⑤
- 八雲営業所からの現地レポート
- 北海道営業本部からの新年のご挨拶

ごあいさつ

謹賀新年

平成17年の新春を迎え、皆様のご健勝と、益々のご繁栄を心からご祈念申し上げ、併せて本年も相変わりにませぬご愛顧と、お引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

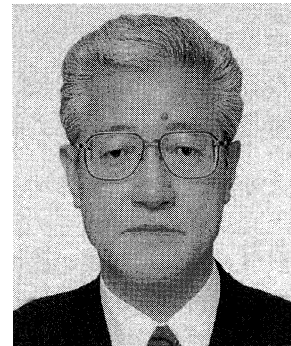
昨年は、長引くデフレ経済からの脱却を目指し、期待と不安を抱えてのスタートとなりました。全体としてはやや回復の兆しがみえてきたものの、7～8月の猛暑、数多くの台風上陸、更には、新潟県中越地震など、大きな災害が重なり、国民の生活や経済面にも大きな影響や被害を与えました。

中国は日の出の勢いのような高度経済成長を続けておりますが、一方では、中近東での政情や経済不安が定まらず、さらにはイラク戦争の長期化等も懸念され、国際石油価格の暴騰が続く、世界経済へ暗雲を投げかけております。

新しい年を迎え、酪農畜産業を中心とする農業界では、国際貿易の自由化に伴う輸入農産物の圧力の高まりや、財源枯渇に伴う農業補助金の圧縮など、ともすれば、生産農家の意欲を減退させかねぬ動きが続いています。その中で、米国でのBSE牛発生に伴う輸入禁止は、一時的には国産牛肉枝肉価格の安定化に役立ちました。しかし、輸入再開も取り沙汰される状況となり、経営的には抜本的な手が打たれたか問われております。

「食品の安全・安心」への希求は高まる一方で、生産・加工・流通などが一体となった取組みが求められ、雪印種苗(株)においても、グループ企業全体として、企業行動基準の徹底や目標水準の向上を目指す、大いなる一年にしたいと考えております。また、事業計画全体では、昨年、秋に策定・発表した『中期3カ年計画』の初動の年となり、役職員一丸となって、その達成に向けた努力を重ねる所存です。

酪農開拓の黎明期、先人達は先ず土作りから始め、環境への負荷の少ない自然循環農業の確立を目指しました。こうした先人達の知恵を、新しい技術のもとでルネッサンスすることが、今求められているのではないのでしょうか。生態系への影響を最小限にして、新し



い緑の再生を進め、自然循環にかなった農業や生活の確立を目指し、雪印種苗は以下のビジネステーマを掲げ、その実現に向け、顧客の皆様と共に研鑽を続けてまいります。

- ・自給率向上・環境条件に適合した牧草・飼料作物種子の開発と販売
- ・安全性を追求した、低コスト生産を可能とする優良野菜種子の開発と販売
- ・植物・微生物の機能を活用した病虫害の抑制や成長促進資材の開発・販売
- ・より安全性を求めた乳牛用・肉牛用各種配合飼料の研究と製造・販売
- ・未利用資源や副産物を活用したTMウエット飼料の研究と製造・販売
- ・生活に潤いを与える花卉・ガーデニング資材、芝生種子の開発と販売
- ・大型緑化工事の設計・造成施工・維持管理の請負、など

農業の生産現場から、幅広い生活分野に至る、数多くの商品と技術を取り揃え、皆様のご用命をお待ちいたしております。

本年も相変わりにませぬご愛顧と、お引き立てを賜りますよう、重ねてお願いを申し上げます、新年のご挨拶と致します。

平成17年 元旦

雪印種苗株式会社
代表取締役社長 城座 勝明